

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp



竹山動物病院獣医師

(富山市西田地方町)

宮崎 陽子

19

肥満、あるいは肥満気味の犬や猫が多くいます。いっぱい食べて、おやつも食べて体重が増えていくのです。一方で、たくさん食べても痩せていく、という病気があります。そのうちのひとつが「猫の甲状腺機能亢進症」という病気です。

甲状腺は喉の辺りにある小さな分泌腺で、甲状腺ホルモンが分泌されます。このホルモンは、代謝をはじめ、体温や血圧、心拍数を調節しています。甲状腺が腫瘍化する、あるいは大きくなってしまうことでホルモンが大量に作られてしまう病気が甲状腺機能亢進症です。代謝が必要以上に良くなることで体に無理がかかります。

猫の甲状腺機能亢進症



16歳になった高齢の猫。食べても痩せてきたら甲状腺の病気に気を付けよう

分かりやすい症状として「たくさん食べるのに痩せてくる」「活発になる、よく鳴くようになった」「異常に動き回る」「呼吸が早い」といったものがあります。猫の胸に手を当てたときに心拍数がとても多いことに気付く人もいます。

心臓が悪くなっていることもあり、当てるはまる症状がある場合は、血液検査で甲状腺ホルモンを測定することで診断できます。8歳以上の中高齢から発病が増えますので他の病気を併発していないかも

によって甲状腺ホルモンが低下することで血流が減り、腎臓の機能が悪化する可能性があります。甲状腺機能亢進症は中高齢の猫がかかる病気ですので、腎臓の機能が低下しないよう注意します。既に腎臓機能が低下している場合

「食べても痩せる」に注意

確認します。

治療には一般的に、甲状腺ホルモンを作りにくくする薬を使用します。薬をどうやっても飲まない場合はこの病気の用キヤットフードを与える方法もあります。他に、甲状腺を切除する方法もあります。手術に関してはよく主治医と相談してください。

治療の際の注意もあります。多すぎる甲状腺ホルモンのおかげで腎臓への血流が保たれていた場合、治療は甲状腺ホルモンの数値を正常まで下げず、やや高め維持する、もしくは甲状腺の治療をしないという選択をすることもあります。治療中は甲状腺ホルモンとともに腎臓の機能を定期的にチェックしましょう。

症状が進んで、痩せすぎてしまっている、食欲もなくなっている、心臓の動きがかなり低下している、といったときは治療しても回復しないことがあります。中高齢の猫が、よく食べているのに痩せてきたときは早めに病院に行きましよう。